

マナスル・サミット2026  
島田外務大臣政務官挨拶  
(5月23日(土))

御列席の皆様、こんにちは、ナマステ。

外務大臣政務官の島田智明でございます。本日の「マナスル・サミット 2026」の開催に当たり、外務省を代表して御挨拶申し上げます。

70年前の1956年5月、日本登山隊は三度の挑戦を経て、槇有恒（まき ゆうこう）隊長のもと、今西壽雄（いまにし としお）さんがマナスル登頂を成功させ、凱旋帰国しました。この年は、日本とネパールが外交関係を樹立した年であり、そして、本年、両国は外交関係樹立70周年を迎えます。本日、この二つの節目を同時に祝うことができ、嬉しく思います。

今回の「マナスル・サミット 2026」の開催に当たり、日本山岳会及び毎日新聞社の御尽力に心から感謝申し上げます。また、株式会社安藤ハザマ、株式会社今西組、カシオ計算機株式会社、立正大学りっしょうの御協力にも厚く御礼申し上げます。

日本とネパールとの関係は、今から120年以上の昔、川口慧海（かわぐち えかい）という一人の仏僧がネパールを訪れたことに始まります。この70年間、数多くの登山家がネパールを訪問し、山岳分野での交流を深めていったことが、両国の友好関係の大きな礎となっています。また、教育、農業分野での技術協力や、地方自治体間の活動など、幅広い分野での交流が行われてきました。

日本政府としても、保健、教育、農業、インフラ整備等、幅広い分野での協力を進めてまいりました。日本企業により整備された「ナグドゥンガ・トンネル」は、開通すれば、ネパール初の山岳トンネルとなります。これにより、交通渋滞の緩和だけでなく、物流の円滑化や、災害に強い道路網の実現が期待されます。

本年2月には、ポーター大統領が訪日され、高市総理との会談などを通じ、両国の友好の絆を確かめあう心温まる機会となりました。3月には、私自身が、選挙監視団の団長としてネパールを訪問しました。その際、どこを訪れても、ネパールの皆様による大歓迎を受け、これまでの日本の協力に対して感謝の言葉を頂き、感銘を受けました。こうしたネパールの皆様の日本への敬愛と信頼こそが、未来に繋ぐべき国際社会における日本の価値だと思えます。

最後に、日本・ネパール関係の一層の発展と、皆様の御多幸と御健康をお祈りし、私からの御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。ダンニャバード。

(了)